
家庭教師ヒットマンREBORN！ 秘密の少女

あんみつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

家庭教師ヒットマンREBORN！ 秘密の少女

【Nコード】

N4582Y

【作者名】

あんみつ

【あらすじ】

ある日、間違えて神に殺されてしまって、死んでしまった、愛原あいはら未来。みらい

神に、「間違って殺してしまって、悪かった。その代わりに、REBORN！の世界に転校させてやる。」

と言われ。

未来は、自分が大好きなREBORN！の世界に行くことになった。しかし・・・彼女には、絶対に誰にも言えない・・・秘密があった。その秘密とは・・・

この話は、シモン編が終わってからのオリジナル話。

オリキャラ設定

名前	愛原 未来
フリガナ	アイハラ ミライ
身長	153cm
体重	40kg
髪型	お団子に、星がついているかんざしが刺さっている。
性格	めんどい事が嫌い、誰にでも偽の自分を出している。
	信用してる人でも、偽の自分。本心は、ださない。
好きなタイプ	強い人、かっこいい人、仲間のためなら何でもする人など・・・
嫌いなタイプ	弱い人、うるさい人、心配する人、ちょっかいしてくる人など・・・
武器	何でも使えるが、おもに、剣（赤色、黒色）
能力	心が読める、未来が見える、相手をのつとることができる。

オリキャラ設定（後書き）

初めての小説です。

よんでくれてありがとうございます♪

これからもよろしく。

誰かに会う!! (前書き)

タイトル関係ないかも・・・

誰かに会う!!

ある日の帰り道……

未来「はあ、今日も詰まんなかったなあ。」

何でいつも同じ事しないといけないんだろう。」

一人で、ぶつぶつ言いながら、帰っていると……

？「そこのお前。」

今日こそ殺してやる。」

何を言ってるのかわからない人がこちらに向かって走ってくる。

その人の手には、なにかギラギラしているものを持っている。

次の瞬間、体に違和感が感じる。

まさか……と思い見てみると。

その人が持っていた……ギラギラとしたものが刺さってる。

それは、包丁だった。

未来は、そこに倒れた。

未来「うう……なに……これ……」。

あ……れ……もしかして……死ぬパターン……か……
な……？」

未来は、苦しい顔で言った。

その人は、びつくりした顔で、

？「なっ・・・お前は、違う人・・・

悪かったな。

人違いだった・・・まあ、お前は、すぐ死ぬからな、安心しな。」

えっ・・・人違い？？

うそ・・・こんな死に方だよ・・・

もう、その言葉は、声に出せなかった。

だんだん意識が・・・飛んでいく・・・

？「じゃあな。

未来。」

未来は、意識を失った。

誰かに会う!! (後書き)

今回は、長かったですね。
また次回

神に合う!! (前書き)

今日は、まだまだ書くかも・・・

神に合う!!

未来「うううここは??」

だって私・・・死んだはずじゃないの??」

未来が、悩んでいると・・・

?「おつ来た来た。

待ってましたよ今度からは、もっと早く起きてね」

誰かが、話しかけてきた。

見てみると・・・美少年!!!

かっこいい・・・イケメンだ!!

えっ、でも何でここにいるんだろ?

未来「あの・・・何でここにいるんですか??

イケm・・・お兄さん。」

危ない、危うくイケメンっていうところだった。

ふうう良かった良かった。

未来が安心してると・・・

ロック「そうかあイケメンねうういいね!!

あっ、初めまして。

俺の、名前は、ロック。職業は、神様ね!！」

未来「よろしくお願いします。」

えつゝと、私は、愛原 未来です。」

未来は、やっぱり気づいてたんだ・・・えつ・・・神様???

この人・・・神様~~~~~!!!!!!

ロック「名前は、もう知ってたよ!!」

だって俺神様だし!!

さっき未来会ったし。」

ロックが、俺は、すごいぞと言っているように聞こえる。

いやちがう・・・そういつてる。

未来「えつ・・・会ったて、どこ??

ここはどこ??」

未来は、もう敬語ではない。

ロック「えつ・・・だって君殺したの俺だし

いやゝゝあの時はごめんゝゝ。

未来に似てる人だったし。まあドンマイ未来♪」

神に合う!! (後書き)

後に、続きます。

神を憎む！！（前書き）

前の続きです。

神を憎む！！

未来「ドンマイだって……ふざけんなよ……！！」

人を、まちがった！！！！！！それぐらいで、勝手に、殺すな！！

今度は、私が、お前を殺す……！！」

私は、人生でこれだけ怒ったのは、これが初めてだ！！

ロックは、私の前で、土下座をして、

ロック「ごめんなさい。申しません……絶対に……！！

あと、殺気を消してください。

貴方の好きな……REBORN！の世界に連れて行くんで……！！

能力もつけときます……なんでもしますんで、許してください……！！」

ロックが、泣いて謝って来たので、未来は、殺気を消して……笑って。

未来「へえ……なんでも……いいよ。」

その代わりに、私が、想像した者をだしてね（ニコッ）

偽の笑顔で、言った。

ロックは、顔が青い。

ロック「わかりました。今想像してください。」

いきます。楽しんできてください。

あっちに行ったら電話があるんで、それでかけてください。

┐

未来は、体が浮く感じになって・・・落ちた。

神を憎む!! (後書き)

やっとREBORN!の世界です!!
お楽しみに。

REBORN!の世界!!

未来「いったゝゝ。あつついたのか。ここかあゝ
思いど通りにホントになるんだ。」

感心しながら・・・携帯を探す。

ここは、並中から、徒歩5分の所だ。

一戸建てで、4階まであり・・・1階ずつとても広い。

未来は、携帯をとり、ロックにかけた。

未来「プルルル・・・プルルル・・・ハイ」

もちろんロックが出た。

未来「あつ・・・ロック。あのさあゝワンコールで出てね。
守らないと・・・わかるよね??」

未来は、笑いながら言った。

ロック「わかりました。ああゝタンスに服があります。
武器もありますんで・・・。
いってらっしゃい。」

未来「わかった。バイバイゝゝ。」

これは便利!!

따라서 $\angle J$

REBORN!の世界!! (後書き)

次回みんなに会います!!

ボンゴレファミリーに会うー！

ここかぁ～変わらないな。

あつそつだー！！ 雲雀どこだ～っっていない。

あぁ～あ・・・まっいいや。

職員室行かなくていいや。怒られたら・・・ドンマイ

先生「ここで、転入生の紹介だー！！さぁ～入れ。」

私は、しなやかに入った。

未来「初めまして。愛原 未来です。よろしくお願いしますー！！。」

未来は、偽笑顔で言った。

男子達は「かわいい～」と言っており・・・

女子は「かっこいい」と言っている。

未来は、内心あきれている。めんどくさい。

私は、ある人を探していた。

沢田綱吉だ。

見つけた。しかも目合っちゃた。

ツナ（えっ・・・今俺を見た？？そんなにかあゝ。）

獄寺「あのやろっ・・・10代目を見て！！10代目！！敵かもしれ
ません！！。」

ツナ「獄寺君落ち着いて・・・敵じゃないよ・・・たぶん。」

なんか言ってるな。私のことか！！

先生「えっ・・・と愛原は・・・沢田の隣だ！！。」

未来「わかりました。ありがとうございます。」

やったゝゝツナの隣だ！！

ボンゴレファミリーに会うー!! (後書き)

いい所ですが・・・次回です。

ターゲットになる！！

未来は、ツナの隣に座った。

ツナの隣は、山本。　間を挟んで隣が、獄寺だ。

ツナ「よろしくね。　愛原さん。　俺沢田綱吉。」

未来「あつ・・・うん・・・よろしくね。

わからないこと・・・あるから・・・よろしく。」

未来は、まだ信用できていないので・・・途切れ途切れになっ
てしま
す。

獄寺「おい！！おまえ・・・10代目になんて事を言う！！謝れ！！」

獄寺が、怒るのでめんどくなっちゃった。

こっちが、せつかく答えたのに・・・

未来「ごめ・・・ん・・・ツナ君・・・こんな私で・・・

”ボンゴレ10代目”に勝手に話しかけて・・・」

私は、はっきりわかるように言った。

ツナ（なんで愛原さん・・・ボンゴレのこと知ってるの！！）

あたりまえじゃん！！と心の中で言う。

獄寺「おい!!あとで屋上に来い!!」

赤ちゃんに会う！！

やっと授業が終わった。

未来は、さつさと屋上へ行こうとすると、

男子A「愛原さんって彼氏いる??好きなタイプは??」

女子A「愛原さんかつこいいよね!!どこ出身??」

未来「あの・・・困ります・・・用事あるんで・・・ごめんね
ニコッ」

未来は、人をよけながら出て行った。

未来が、出て行ってもまだクラスは、うるさい。

未来は、並中のだいたいの場所は、知ってるので迷わない。

屋上についた。

かなり急いできたので、息が上がっている。

屋上には、沢田綱吉、獄寺隼人、山本武、それに・・・赤ちゃんの
ボーン。

未来「ハア・・・ハア・・・ごめん・・・待った?」

まるで、デートの待ち合わせの言葉見たく言った。

ツナ「愛原さん「未来でいい。」・・・未来ちゃん待ってないよ。」

獄寺「お前！！！！また10代目に向かって！！その態度直せよ！！」

また・・・獄寺が騒いでるよ。ああゝうるせゝ

山本「まあまあ、落ち着けっつて獄寺。」

獄寺「うつせえ！！野球バカお前は、黙ってる！！」

いつまで続くんだろうっと思っていた。

沢田を見ると、困っている。

本当に、ボスなんだろうか？思ってしまう。

リボーン「お前ら静かにしろ。俺達は、こいつに話があるんじゃないのか？」

リボーンが、言うともんなは、黙った。

未来「かわいーく赤ちゃんだ！！この子ツナの弟？？」

未来は、あえてリボーンの事をバカにした。

リボーン「俺は、赤ちゃんじゃね・・・ヒットマンだ！！（力チャ）」

リボーンは、未来に向けて銃を構えた。

ツナは、おどおどしてる。

ツナ「未来ちゃん、危ないから、下がってリボーンも、銃をしまえ
！」」

そうすると・・・リボーンが未来に、向けて撃った。

赤ちゃんに会う!! (後書き)

長いですが、読んでくれてありがとうございます!!

アルコバレーノ！！

ツナ「未来ちゃん！！危ない！！」

ツナにいわれたが・・・避けない。

獄寺、山本も、リボーンの行動が、突然だったのか、動けない。

未来は、弾を素手でとった。

この行動に、みんなビックリしている。

未来「危ないなあ、ツナちゃんと赤ちゃんの教育してる??」

未来は、未来が見えるので、このことは予測していた。

さらに、殺気を一割出しているだけなのに、みんな顔が、青い。

リボーン「未来・・・お前ファミリーに入らないか？」

リボーンが、未来に向かって言うてくる。

未来「何ですか？私ボンゴレはいりたくない。

確かに、ツナたちは、すごいよ。

”骸を倒すし、ヴァリアーに勝つし、10年後に行って、百
蘭倒すし、

シモンにも勝って”ホントに、すごいよー!!」

みんなは、ビックリしている・・・もちろんリボーンも。

今まであったことを、未来は、すべて知っている。

リボーン「未来・・・お前何者だ・・・答える!!」

リボーン発言に、みんなは、我に帰った。

獄寺「そくだよ!!リボーンさんの言うとおり、答える!!」

未来「私は、ただの一般人だよ!!ただちょっと知ってるだけ・・・」

みんなは、（ぜったい一般人じゃねよ!!）と思っている。

当然、未来は、心を読める。

未来「これを見ればわかるかな？」

私は、アルコバレーノだ!!」

未来は、おしゃぶりを見せた。

チエーンは、つけてるけど・・・虹色だ。

この中で、一番リボーンが、ビックリしている。

未来「じゃあね、みんなまたね!!」

未来は、屋上を去った。

アルコバレーノ！！（後書き）

この話は、まだ未来は、本心を出していません。

未来の本心は、これからです！！

アルコバレーノは、ロックに頼まれてなりました！！

何者??

未来が、屋上から去った後・・・

ツナ「嘘だろ・・・未来ちゃんが、アルコバレーノ!!」

ツナが、大声を出していった。

リボーン「うつせえぞ。俺もビックリしたぜ。虹色のアルコバレーノなんて聞いたことないぞ。

あいつ何者なんだ・・・」

リボーンが、言うと、獄寺が急に、走り出した。

ツナ「ええええ!!!!獄寺君急にどうしたの!?!」

獄寺「10代目!!俺あいつの後、追ってきます!!何者が調べてみます!!」

獄寺は、そういつて屋上から、去っていった。

山本「おもしろいなあ!!いつちよっ俺も行くか、じゃあなツナ。」

山本も、獄寺のあとを、ついて行った。

ツナ（ええええ!!!!なんでみんな行っちゃうの・・・）

リボーン「お前も、ボスなんだから愛原のこと、調べて来い（ゴン）

」

リボーンは、ツナの頭を蹴った。

ツナ「わかったよ、行けばいんだろ、行けば！」

ツナも、獄寺たちの後を、追った。

リボーン「俺も、調べるか・・・」

リボーンは、誰もいない屋上で、笑ってた。

ナンパにあう!!

そのころ、未来は・・・

未来「おっ!! やっぱりみんな私のこと、調べるんだ!! 楽しみ〜」

未来は、歩きながら未来を見ていた。

未来は、家に帰っていると、

男子A「これからどうするいい女いないしなあ〜」

男子B「確かにいないなあ〜おっ!! あの子可愛い子だ!!」

男子A「ほんとだ!! ナンパしようぜ!!」

未来は、その人達を見ていた。

その人たちが、未来に寄ってくる。

男子A「ねえねえ〜君。可愛いねこれから暇?」

未来は、おびえたフリをしながら。

未来「えっ・・・私・・・可愛いですか?・・・そんなの・・・困ります。」

未来は、泣きそうな顔をした。

男子達（「何この子めっちゃん可愛い！！」）

男子B「可愛いよ！！泣かないでね。」

男子達は、おどおどしている。

未来「ありがとうございます・・・暇ですけど・・・」

未来は、だんだん笑顔に戻ってきた。

男子A「ホント！！じゃあ俺らと遊ぼうよ！！」

男子が、うれしそうに言った。

未来「いいですね・・・」「君達何群れてるの。」「・・・えっ！！」

未来は、声が聞こえたところを、向いた。

その声は・・・雲雀 恭弥だった。

ナンパにあうー!! (後書き)

やっと、雲雀登場ですよ……
ここまで、長い……

雲雀 恭弥に会っ！！

男子達は、雲雀を見て脅えている。

雲雀「咬み殺す」

雲雀は、トンファーを、男子達を殴った。

男子達「くおおおお！！！！」

男子達が、吹っ飛んだ。

雲雀が、こつちを見て笑った。

雲雀「次は、君だよ。」

殺気を放っている。

未来も笑って。

未来「えっ・・・困ります・・・私・・・戦えないし・・・」

未来は、フリをしているが、まったく雲雀は、気にしてない。

雲雀「いいから・・・咬み殺されなよ。」

雲雀が、向かってくる。

未来は、ため息をついて。

未来「いや・・・怖・・・くない・・・」

未来の発言に、雲雀はビックリした。

未来は、雲雀の攻撃をすべてよけている。

そこに、ツナたちが来た。

ツナは、雲雀の攻撃をすべてよけているのを見て、びっくりしている。

ツナ「すごい・・・ぜんぶよけてる・・・」

未来は、ツナたちが来たので、一歩下がった。

未来は、小声で雲雀に向かって、

未来「ごめんね・・・もう終わりだよ・・・」

と、いって未来は、逃げた。

ツナたち「あっ！！にげた！！」

雲雀「ちっ・・・逃げられた・・・眠いから帰る。」

雲雀も、帰っていった。

ツナ（なんで俺達が、来たから逃げたんだ??）

ツナは、心の中で、疑問に残った。

未来の好きな人！！

未来は、もうダッシュでツナたちから逃げてきた。

未来「危なかった！絶対戦つてるところ見せれないし・・・リボーンに、目つけられたら、やばいし」

未来は、知らなかった・・・もうリボーンに、目をつけられていることを。

ロック「おい、未来。」

突然声がした。

周りを見ているが・・・誰もいない。

ロック「当たり前だよ！！俺は、お前の中にいるから・・・みえねえよ。」

未来「ああ～そうか。で、何の用？」

突然、殺気を出した。

ロック「殺気出さないください。お願いします。」

なぜかロックは、泣きそうな声で言った。

未来は、そこまで悪魔ではないと、思い・・・殺気を抑えた。

ロック「あの・・・未来様。何でそんなに、沢田たちと仲良くしないんだ。」

せつかく、REBORN!の世界に来たのに?」

未来は、ちよつと困った顔で、

未来「ツナたちと仲良くしたいけど・・・私は、あいつらよりも、もっと別の人に、会いたいのに!!」

ロック「誰だよいったい。お前が、そんなに会いたい人って?」

未来は、顔を赤くして

未来「それは・・・その・・・ええ!!言つの・・・?」

ロックは、未来の顔を見て、顔を青くした。

ロック（かわいい・・・だけど、こんなに人によって、態度変わるのかよ。）

未来「なんか言った!!」

未来は、突然殺気を出した。

ロック「いえ・・・なんでもありません。誰だよ!!」

未来「わかった言う・・・その、ヴァ、ヴァリアーなんだけど・・・
・ / / / /」

ロック「ヴァ、ヴァリアーだと!!お前ヴァリアーが好きだったの

かよー!!」

未来「私ね、その・・・好きな人の前では、途切れ途切れに、なっちゃうの・・・」

ロック「だから、沢田たちの時も、ああなったのか!!なるほど!!」

ロックは、すべてわかった。

ツナたちと話す時、あんなにおどおどしていたのかが、わかった。

未来「これ秘密だからね!!絶対だよ!!」

っと、言って、家に帰った。

未来の好きな人！！（後書き）

作者「未来は、ヴァリアーが好きだったとねえ」

未来「べ、べつにいいでしょ！！ヴァリアーがすきでも！！／／／／」

作者「特に、誰が好きなんですか？」

未来「えっ・・・誰が・・・好き？・・・そんなのいえない！！」

作者「じゃあ、ヴァリアーの人に会わせます。」

未来「会ったら・・・死んじゃう・・・」

作者「皆さん！！未来は、誰がすきなんでしょうか？

会ってからの楽しみ！！」

宣戦布告！！

次の日の朝・・・

未来「やばーい！！遅れる！！」

未来は、朝から遅刻になりそうだった。

今、8：10分

学校に着いた・・・8：15分

未来「セーフ！！あれ？？誰もいない！！ああー今日学校休みだった！！」

未来は、てっきり学校があるかと思った。

未来は、歩いており、屋上へ向かった。

屋上について・・・

未来「ううー気持ちー」

体を、伸ばしていると、

ツナ「未来！！何でここにいる！！」

えっ・・・と思い見てみたら、ツナたちがいた。

ツナは、ハイパーモードツナになっており、額には、死ぬ気の炎があった。

未来「何やってるの???みんなそろって。」

未来は、平然と聞いてきた。

リボーン（なんでこいつびっくりしないんだ）

未来は、心を覗いていたので笑っている。

リボーン「こいつらの、修行をしている。」

未来「へえ、そうなんだ。」

未来は、興味なかった。

自分より弱いからだ。

リボーン「おい、愛原!!--こいつらの相手になってほしい。」

みんなビクリしている。

未来はため息をついて

未来「いいよ、でも、死んでも知らないよ。」

未来は、殺気を出しながら言った。

リボーン（こいつは、すげえな。）

未来は、一步前に出て、

未来「ここにいる、みんなであていいよ。私、勝てるから!!」

みんなは、その言葉に、青ざめている。

未来「なに? 怖いのか? あの”ボンゴレ10代目ファミリー”が脅えてるなんて・・・アツハハハハ!!」

獄寺「貴様!! バカにしやがって!!」

リボーン「うるせえぞ!! 始めるぞ。」

静かになった。

未来「じゃあこのコインが、床に着いたらスタートね」

未来は、コインを、弾いた。

宣戦布告！！（後書き）

これから、戦いですよー！！
未来は、戦いになると、我を忘れます。

戦い始まる！！

コインが、床についた。

先に、攻撃してきたのは、獄寺だった。

獄寺「カンビオ・フォルマ形態変化」

獄寺は、姿が変わった。

未来「へえ〜これがね・・・どんなの？」

獄寺「瓜ボム！！」

瓜が、こっちに来た。

未来は、避けようとしなない。

未来は、くらった。

だが、傷一つもついてない。

未来「なんだ〜これだけ・・・つまんない」

獄寺立ちは、ビックリしている。

未来「ねえ・・・終わりにしていいかな♪飽きたし・・・」

未来は、そう言って・・・獄寺たちに、向かってくる。

獄寺は、未来の行動が、早くて見えなかった。

獄寺「なっ！！はええ！！」

未来は、獄寺の前に立ち、一瞬笑って、蹴った。

未来「一人終わり！！二人目いきまーす！！」

そういつて、次は、山本の前にいた。

山本（なんだこの速さ・・・）

山本は、反応できなかった。

山本も蹴りで、飛んでいった。

未来「二人終わり。三人目」

笹川の前に、立つ。

笹川も飛んでいった。

未来「みんな弱すぎ！！最後だね・・・ツナ！！」

今度は、ツナから行った。

もうそこには、未来はいなかった。

ツナ（どこだ？）

ツナは、探してる。

未来「後ろだよ。うしろ・・・」

未来は、ツナの後ろにいた。

未来「これで終わった。」

ツナも、飛ばされた。

リボン「俺達の負けだ。お前強いな。」

未来「どうも!!じゃあね!!」

未来は、いなくなった。

戦い始まる！！（後書き）

すみません。あまりバトルシーンうまくできないので・・・省略しました。

考える！！

未来は、家に帰っており、

未来「みんな弱すぎ・・・せっかく楽しみにしてたのに！！」

ため息をした。

未来の、目の前にロックがあれわれた。

未来は、急に殺気を出した。

ロック「殺気引っ込める。しょうがないだろ、未来がつよすぎ。」

未来「お前いつから、偉くなった！！」

ロック「ごめんなさい。そうだイタリアに行って、ヴァリアーにあつてこいよ！！」

ロックは、いつも以上元気になった。

未来「えっなんで・・・イタリア・・・ヴァ、ヴァリアー・・・に、会つてこいだと・・・／／／／／」

未来は、顔を赤くしていった。

ロック「別にいいじゃね。行こうぜ！！」

未来「えっ・・・でも学校は・・・」

ロック「病気つてことで。いこう!」

未来「わかった。準備する。」

未来は、自分の部屋に行つて、準備し始めた。

ロック（俺が、ぜんぶ手配してやる）

未来たちは、早速空港に行った。

考える！！（後書き）

次回、ヴァリアーです！！
未来が、好きな人がわかります！！

イタリアー！！

未来は、今イタリア行きの飛行機に乗っている。

あれから数時間後、イタリアに着いた。

未来は、体を伸ばした。

未来「ああーやつと着いた！！飛行機の中最高ーだよー！！」

未来は、飛行機の中で、曲を聴いていた。

もちろん好きなキャラクターのキャラソンだ！！

ロック（おい未来ー！！ヴァリアーの本部に着いたら、部下をのつとて、侵入しろ。）

未来は、心の中で頷いた。

未来は、ヴァリアーの本部に向かっていた、

未来（ここであつてるの！？全部森じゃん！！）

未来は、後ろから、飛んできたものをとった。

見たら、ナイフだった。

未来は、確信した。

ここは、ヴァリアーだ。そしてナイフの主は……ベルだ！！

ロック（何見つかつてるんだよ！早くのつとれ）

未来は、走った。

ベルは、追いかけるのをやめた。

ベルは、通信機を出した。

ベル「しししっ隊長侵入者発見！！そっち向かった」

？「うゝおゝおい！！何やってるんだよゝちっ、しょうがね。」

ベルは、切った。

ベル「誰だよ……あいつ……」

ヴァリアーに会う!!

未来は、ヴァリアーの警備隊を見つけた。

未来（気絶させないと・・・めんどいな～あっ!! ロックやってこい!!）

未来は、ロックをパシリした。

ロックは、どんどん倒していく。

未来「これでいいよね!! のつとてる間は、楽だな!!」

未来は、一人の警備隊の中に入った。

未来「へえ～こいつレヴィのぶかなんだ・・・かわいいぞ」

未来は、のつとった相手の、情報がわかる。

未来は、庭に向かった。

庭に着いた。

未来は、自分になった。

未来「やっぱり!! 自分の体が一番」

A「見つけたぞ!! 侵入者だ!!」

未来は、笑顔で逃げた。

未来(いっしょに未来を！)

未来は、近くにあったドアに、逃げた。

「う、おい！！貴様が、侵入者か！！」

未来は、振り返ってみたらヴァリアーのみんないた。

未来「えっ……聞いてない……」

「うお、おい、三枚におろしてやる！」

$$1 \leq \dots \leq n \implies 1 \leq \dots \leq n, \quad 1 \leq \dots \leq n, \quad 1 \leq \dots \leq n, \quad 1 \leq \dots \leq n$$

「おい、てめえ何者だ？」

睨まれたよ……ぜんぜん怖くないけどね♪

未来「えっ——と……一般人で～す!!」

うわぁーみんなの視線が、痛い。

「何バ力なこと言ってんだ！！」

この人ひどくない……人をバカだつて!!あとで、殺す。

「ふん、かつ消す。」

ベル「ちよつボス！！まずいつて。」

？「ムムム、やばいね。あいつ死んじゃうよ。」

みんな戸惑ってるね。おもしろい

未来「貴方が、ボスですか？コワイ！！」

笑いながら言った。

未来は、急に顔を、無表情にした。さらに、殺気を出した。

ヴァリアーのみんなは、未来の行動にビックリしている。

？（何だこいつ。急に殺気を出しやがった。）

未来「私と、殺りますか？ヴァリアーの皆さん」

また、笑顔で言った。

？「いいぜ！かす鮫つれてこい」

未来は、殺気を抑えた。

ヴァリアーに会う!! (後書き)

未来は、最初は、恥ずかしかったけど・・・戦いモードのスイッチ
がはいりました!!

ヴァリアーと戦う!!

未来が、歩いていると、

?「お前、名前は!!」

未来「えつーと・・・ルビー・ルミネ・未来だよ!!」

スクアーロ「俺は、スクアーロだあ!!」

未来は、無視した。

未来は、次に赤ちゃんを見た。

マーモン「ムムム、僕は、マーモン。」

未来は、笑った。

未来（今は、喋りたくないし）

スクアーロから、他の人の名前を聞いた。

未来は、ポケットから、携帯を出し、イヤホンをつけた。

スクアーロ「お前、曲聞くのか!!」

未来は、頷いた。

未来が、聴いてる曲とは・・・ベルの「bloody prin

ce」だ

未来は、普段から、曲を聴いている。

ベル「着いた。しししっ、楽しみ」

XANXUS「来たか・・・お前の相手は、カス鯨とレヴィだ・・・」

未来「ねえねえ、XANXUSさあ、ホントに、こいつらでいいの？」

XANXUS「ああ・・・」

未来は、笑った。

未来「すぐ終わるなあ」。

スクアール「すぐに終わるのは、てめえだ!!」

スクアールが、剣を振って、近づいてくる。

未来は、それをよけスクアールの後ろに立ち、蹴った。

スクアールは、飛んでいき、壁に合った。

レヴィは、最初に終わらせてある。

未来は、剣を向けた。

スクアーロ「俺の負けだ!!」

XANXUS「おもしれゝ気に入った。かす鯨こいつを、入れるぞ!!」

未来「ありがとうございます!! 頑張ります。」

未来は、その部屋から、出て行つた。

ネックレス・・・

今は、朝・・・

未来「ふあゝよく寝た！！今は・・・10：45分」

未来は、時間を確認すると、着替えて部屋を出た。

ロビーに行っただが、誰もいない。

未来「あれ誰もいない・・・なんでえ？」

未来が、困っていると、

スクアール「お前今起きたのがあー！！」

あさからうるせえなあゝと思いつながら、部屋をでた。

自分の部屋に着くと、首から掛けていたネックレスを見た。

そのネックレスを見ると、悲しくなる。

でも・・・これは見ないといけないもの。

忘れてはならないこと。

未来は、気づくと泣いていた。

未来は、誰か来たらいけないと思い、涙を拭いた。

そのネックレスを首に戻し、見えないようにした。

絶対に、見せられない。

必ずこの記憶は、忘れないよ……

未来は、心の中で、誓っていた。

未来は、我に帰ると、誰かが見ていると、思った。

未来「誰……そこにいるのは。」

ドアは、開いた。

ドアから見ていたのは……

ネックレス・・・（後書き）

ちょっとシリアスになりました。

皆さんは、わかりましたか？

ネックレスのこと。

ネックレスに映っているものは、未来の秘密にかかわります。

そこにいたのは？

ドアのところにいたのは、マーモンだった。

未来は、ため息をついた。

未来「なんだマーモンかぁ、良かった。」

マーモン「未来、どうして泣いていたんだ？」

マーモンは、聞いてきた。

未来「えっ・・・マーモンは、そんなこと知らなくていいから・・・」

未来は、悲しそうに言った。

マーモン「どうしても知られたくないんだね。」

未来は、頷いた。

未来「マーモン・・・このネックレスはね、大切な人から、もらったの。」

でも、私は、その人に、酷いことをしてしまった・・・」

未来は、ネックレスを握り締めながら、言った。

未来「ごめん・・・こんなところ、他の人には、見せられないよ。」

マーモンでよかった」

未来は、泣きやみ笑っている。

マーモン「未来、話がある。アルコバレーノについてだ。」

未来「いいよ。話してあげるけど・・・最低限ね。」

未来は、ネックレスをしまった。

未来「じゃあ、何から話そうか!!」

虹のアルコバレーノ使命！！

未来「これを見てわかるよね。ちょっと訳があつて、鎖はとれないよ。」

未来は、鎖がついている、虹色のおしゃぶりを、マーモンに見せた。

未来は、マーモンが、おしゃぶりを見たのを確認して、話を進めた。

未来「このおしゃぶりは、リングにもなるの。」

未来は、おしゃぶりをリングに変えた。

マーモン「ムムム、これはすごいね。」

未来「そうでしょ！虹色の使命は、

（それぞれの守護者達を、見守ること。）だよ。」

未来は、低い声で言った。

マーモン「へえゝそんなんだ。未来ならできるんじゃない。」

未来「ありがとう。これで話すことは、ないから。」

マーモン「わかったよ。じゃあね。」

未来は、マーモンに手を振った。

未来「本当は、もう一個使命あるんだけどね。（ニコッ）」

この声は、外に漏れることなく、消えた。

最後に残ったことは、笑っている未来の顔だった。

虹のアルコバレーノ使命!!（後書き）

実は、マーモンにいったことは、本当の使命じゃあないんです!!
（これも本当の使命だけど・・・）

未来の、本当の使命は、必ずわかります!!

未来の設定（追加）！！（前書き）

ここからちょっと話が変わります。
絶対に読んでください！！

ロック「そこで、母親を見るんだな。」

未来「そんな・・・まいっか」

そうして話は終わった。

パーティ前日！！

パーティの前日、

未来「明日だっけ、エメラルドのパーティ・・・だるいなあ」

未来が、呟いていると、ドアがなった。

未来「誰？そこで用件を言っで。」

ベル「しししっ俺。ボスが、集まれっで。」

未来「OK。今すぐいく。先行っでて。」

未来は、ベットから降り、着替えて部屋を、出た。

未来「遅れてすみませーん。話っで何ですか？」

未来は、何で呼ばれたのか、知っているからだ。

スクアーロ「うゝおゝおい！おせえぞ」

未来は、無視をして、席に座る。

スクアーロ「無視すんじゃねえゝ」

未来「ねえねえ、何の話？ボス」

未来は、XANXUSを見ながら言った。

XANXUS「明日、エメラルドのパーティがある、そこにいくぞ」

ヴァリアー全員が、ビクリしている。

ベル「まじかよぉ」

未来「ねえ、なんで？」

未来が、ベルに聞いた。

ベル「エメラルドは、最強のマフィアだ。そいつに会えるなんて、
相当ないぜ。」

未来「へえ、そうなんだ」

XANXUS「今日は、解散だ。」

未来は、楽しみにしていた。

母親が、どんな人か。

パーティへ！！

未来は、今、ヴァリアー専用の車に乗っている。

みんなそれぞれのことを、やっている。

車が、止まり、外に出ると、メツチャでかい城だった。

未来「でかい！！」

興奮している。

未来が、ヴァリアーのなかで、一番に入った。

中を見ると、ツナたちもいた。

ベル「しししつ未来、はしやぎすぎ。」

未来「ハイ」

適当に返事をした。

未来「ねえねえ、スクアアロ。エメラルドさんどこ？」

未来は、わからないので、聞いた。

スクアアロは、指をさした。

スクアアロ「あいつだ」

未来は、ビックリした。

なぜなら、スタイルも抜群で、かなりの美人だった。

ヴァリアーの全員で、エメラルドのところ行く。

未来「どこ行くの？」

マーモン「エメラルドのところ行くんだよ。あいさつだよ」

話しているうちに、着いた。

エメラルドは、気づいてこっちを向いた。

エメラルド「ヴァリアーの皆さん、来ていただきありがとうございます。」

今日は、楽しんでいてください。」

ボスが、挨拶をしているので、違うところにいこうとすると、

エメラルド「貴方、新しい人？名前は？」

急に、話かけてきたので、後ろを向く。

未来は、丁寧に挨拶をして、

未来「初めまして、エメラルドさん。ルビー・ルミネ・未来です。呼んでいただきまことに、ありがと

「うございます」

エメラルドは、驚いている。

エメラルド「貴方が、ルビーさんなのね。」

すると、エメラルドが、小声で

エメラルド「いらっしやい。私の娘。」

未来は、驚いて離れてしまう。

ベル「どうした？」

未来「なんでもない」

未来は、あせった。

ここで、ばれたらたいへんだ。

周りが、暗くなった。

あいさつが、始まるのだ。

エメラルド「今日は、来ていただきありがとうございます。」

挨拶が、始まった。

未来は、皆とはなれて、外にいた。

未来が、ゆつくりしていると、後ろから男の人が、話しかけてきた。
セディ「貴方様が、ルビー・ルミネ・未来様ですね。私は、セディ
です。よろしくお願いします。」

未来は、後ろを向いた。

その人は、黒いスーツを着ていて、イケメンだ。

未来「あの・・・私に何か用ですか？」

セディ「はい。エメラルド様から、命令があつたので、貴方を連れ
て行きます。」

未来は、驚いて、声が出ない。

セディは、未来のそばに行き未来の首のところに、手で打った。

未来「っ・・・」

未来は、意識を失った。

パーティへ!! (後書き)

なんと新キャラです!!

セディは、執事です。

これから、未来はどうなるのか・・・

次回お楽しみ～

パーティへ中々(前書き)

前の続きです。

パーティへ中

未来が、目を覚ますと、部屋にいた。

未来「ここどこ・・・」

未来が、うろろろしていると、

セディ「お目覚めですかルビー様。これからルビー様は、舞台に立つてもらいます。」

未来「なんで・・・立つの！！おかしいから！！それに、皆は、私が、娘だつて知らないでしょ！！」

ふざけないでよ！！」

未来は、大声を出して、訴えた。

セディ「大丈夫です。もう準備できてます。服を見てください。」

言われたとおり、服を見た。

未来「何これ・・・」

服は、ドレスだった。

白のドレスに、柄が入っており、柄は、バラだった。

腕には、薄ピンク色の手袋だ。

セディ「大丈夫です、ルビー様。今日は、皆様に、挨拶するだけです。」

未来「わかった。娘って言うだけだね・・・」

未来は、俯いていった。

セディ「はい、そうです。じゃあ行きましょう、ついてきてください。」

未来は、頷いて、セディの後に、ついていった。

未来（こいつの心が、読めない。どうしてだ！！）

未来が、いらいらしていると、セディがとまって、

セディ「つきました、ルビー様。いってらしゃいませ。」

セディが、礼をする。

未来は、笑顔で、口パクをした。

「あ・り・が・と・う・ね」

未来は、舞台に立った。

皆が、ビックリしている。

ヴァリアーや、ツナたちも驚いている。

未来「皆様今日は、来ていただきありがとうございます。」

私から、お話があります。

私の名前は、ルビー・ルミネです。」

会場にいる人たちが、ざわざわしている。

未来「私は、エメラルド・ルミネの、娘です。」

会場が、一瞬で静かになる。

ある一人の、男性が大声で、

男「嘘だ！！だって、エメラルド様は、子供などいない！！」

ましてや、こんな弱そうな女が、娘なわけない！！」

未来は、その言葉で、頭にきた。

未来が、言葉を言おうとすると、その男性が倒れた。

未来「なんで・・・」

その男性の後ろに立っていたのは、セディだった。

セディ「ルビー様を、侮辱する者は、許しません。」

セディは、手を上げ、近くのメイドたちに、男性を運んでもらって

いる。

エメラルドが、未来のそばにいき、

エメラルド「ルビーは、ちゃんと私の娘です。娘を侮辱するなら、私達は、その者を、殺します。」

これで挨拶は、終わりだね。皆様楽しんで行ってください。」

未来と、エメラルドは、退場していく。

未来は、部屋に戻った。

未来は、その場に倒れ、泣いた。

未来「やだよ・・・誰か・・・たすけ・・・て・・・」

最後の言葉は、声にもならなかった。

未来は、泣きやみドレスを、脱いで、違うドレスを着る。

未来「戻らないと・・・」

未来は、何もなかったように、会場に戻る。

パーティへ中々（後書き）

未来は、何で泣いたのでしょうか・・・
未来の、秘密にかかわります。

パーティへ〜終わり〜

未来は、会場に戻ってきたが、ヴァリアーや、ツナたちには、会いたくない。

それは、舞台での挨拶のこと、母親のことなど、絶対に聞かれる。

未来は、それが嫌で、会わないようにしている。

未来は、これからどうするか、考えていた。

未来（このままヴァリアーに、いけないかも・・・

あるいは、行っても殺されるかも、知らない・・・そうしたら、私は、皆を殺してしまう。

ツナ達もどうだ私を、受け入れてくれるだろうか。 わから
ない・・・

そういえば、昔も会ったよなこんなの・・・

未来「笑っちゃうよ・・・」

未来は、近くのジュースを飲み、また外に行った。

外に出ると、風が涼しかった。

まるで、私を見て、笑っているかもしれない。

後ろから、誰かが走ってくる音が聞こえた。

セディ「ルビー様。お部屋にお客様が来ています。お部屋に戻ってください。」

セディだった。

未来（客つて、ヴァリアーか、10代目だろどうせ・・・）

未来は、表に出さない。

未来「わかった。じゃあ行ってくる。」

セディは、未来に向かって、礼をした。

部屋を空けると、そこには、スクアールと、マーモンと、ベルがいた。

未来、ため息をついた。

スクアール「うゝおゝおい！ため息つくなあゝ」

ベル「つか、未来さあ、なんで隠してたんだよ。」

未来（やっぱりかあゝ）

未来「別に、隠してたわけじゃあないけど・・・」

未来は、なんでわたしが、せめられてるみたいなの・・・

マーモン「落ち着きなよ、多分未来は、初めてエメラルドを見たんだよ。」

未来は、ドキッとした。

未来（何で知ってるの！！）

ベル「ししっなんでだよ」

未来（やっぱりそうだよね！！私言ってないし）

マーモン「だって・・・それは・・・」

パーティへ〜終わり〜（後書き）

最近長いですけど、我慢してください。
お気に入り登録と、感想おねがいします。

エメラルドとの関係！！

マーモン「だって・・・それは・・・未来の反応を、見ればわかるよ。

未来は、エメラルド母親に会うのに、どうして、エメラルド母親について、

あんなに、聞いてきたのが不思議だね。」

未来は、マーモンの話を、否定できなかった。

全てあっていたからだ。

未来「・・・っ」

未来は、部屋から出て行った。

自分のせいで、母親の事がわかってしまった。

未来は、走りながら叫んだ。

未来「ちくしょー！！！！ふざけんなよ！！！！」

未来の声は、城の中に響いた。

未来は、泣いた。

悲しくもない、苦しくもない、ただおもいつきり、泣きたかった。

泣いている、未来の元に、セディがやってきた。

セディ「大丈夫ですか、ルビー様。」

未来「ルビーって言わないで。私は、未来よ・・・」

母から、取った名前なのに・・・

なんで・・・皆は、ルビーって言うの。おかしいよ!!」

未来は、必死に叫んだ。

声にならないほど、叫んだ。

セディ「落ち着いてください、未来様。

わかってはいますが、未来様は、あの大勢のマフィアの前で、挨拶するということは、

時期ボスの挨拶ということです。貴方は、エメラルド様の次にボスです。」

未来「わかってるよ。そうしたら、ヴァリアーともお別れだね。

アッハハハハハハハ!!」

未来は、大声で笑った。

セディ「違う部屋が用意されてます。そちらに行ってください。」

未来「うん、ありがとう。あと、もし私が、狂ったらその時は、私を殺してね。」

未来は、今まで見たこともない笑顔で、言った。

セディ「わかりません。私は、執事であり、敵ではありません。

でも、もしもの時があればですけどね・・・」

未来は、去っていった。

エメラルドとの関係！！（後書き）

更新遅くなつてすみません！！

テスト勉強があつてできませんでした。

感想お願いします。

少女と逃亡！！

パーティが終わった、次の日――・・・

？「はあはあ、早く逃げないと、つかまっちゃう。」

少女は、何者から逃げていた。

男「早く捕まえろ！！」

男達の声が、聞こえてくる。

逃げないと、つかまって外に、出れなくなる。

それだけは、嫌だ。

少女が逃げると、誰かにぶつかった。

ツナ「あついたた。ごめんなさい。」

ツナがぶつかった相手は、ツインテールで、帽子を深くかぶっており、顔は見えない。

少女「こちらこそすいません。油断してました。」

少女は、礼儀正しかった。

ツナは、空が、うるさいと思って、見たら・・・ヘリコプターが、何台も飛んでいる。

ツナ「なにこれ！！何でこんなにヘリコプターとんでるの！！」

ツナは、見て騒いでる。

少女「早くここから逃げて！！危ない！！」

少女は、ヘリコプターから、飛んできた銃弾をツナたちから守った。

リボーン「どういうことだ、なぜ狙われてる。」

リボーンは、山本の肩に乗り少女に問いかけた。

少女「私が狙われているだけだから。あいつらは、私を殺そうとしているの。」

少女は、走りながら言っている。

獄寺「お前何言ってるんだ！！そもそもお前は誰だよ！！」

スフィア「私は、スフィアだよ！！よろしく

ともかく、早くここから逃げよう・・・家近くにあるから来て！！」

スフィアは、そう言ってスピードを上げた。

少女と逃亡！！（後書き）

変なところで終わりですけど、
すいません。

スフィアの家族！！

スフィアの家についた。

そこは・・・未来と同じ家だった。

ツナ「どういうこと・・・なんでルミネ家の家に・・・」

ツナたちは、息を呑んだ。

スフィア「だって私一応ルミネ家の人間だしね。」

スフィアは、不思議そうな顔でいった。

ツナ「ええゝゝってことは、未来ちゃんの妹！！」

スフィア「早く家に入って。」

家の中に入ると、玄関には、セディがいた。

セディ「いらっしやいませ、ボンゴレ10代目ファミリー様、ネクス様」

ツナは、その言葉を聞いて不自然に思った。

ツナ（なんでスフィアって言わないんだ）

獄寺「そいえば、この執事の名前聞いてないですよ！！10代目！！」

セディ「自己紹介が遅れました。

私の名前は、セディ・ファーストです。

エメラルド様兼ルビー様の執事をやってます。」

セディは、一礼した。

ツナ「よろしくお願いします。」

ツナたちも、一礼した。

セディ「今回は、何のご用件で。」

スフィア「あのね、私を狙ってくる人たちに、追われているところを、お兄ちゃん達が、助けてくれたんだよ！！すごいよね！！」

スフィアは、元気な声で言った。

ツナたちが話していると、

エメラルド「誰か来ているの？・・・なんで貴方がいるの・・・」

エメラルドは、スフィアを見ていった。

エメラルド「早くそいつを追いつ出して！！顔も見たくない！！」

ツナは、スフィアを見た。

スフィアは、今でも泣き出しそうな顔をしている。

セディ「すいません。部屋に案内します。」

セディは、そういつて、ツナたちの下へいき、小声で

セディ「このことは、ルビー様に聞いてください。」

セディは、部屋に向かった。

スフィア「またね……おにいちゃんたち……後で」

スフィアは、ツナたちの背中を見ていった。

スフィアの家族！！（後書き）

スフィアは、なぜこんなにも、嫌われているかは、次回です

未来とスフィア！！

セディに案内された部屋は、部屋の中が、物凄く広かった。

ツナ「こんなところにすんでるなんて・・・」

未来「ツナたちじゃん！！おっひさ」。

ここにつれてきたってことは、なにかあったでしょ？」

未来は、ベットから降りていつてきた。

ツナ「うん。スフィアの事なんだけど・・・」

未来「スフィア？・・・って誰？？」

皆は、驚いている。

山本「お前知らないのか？」

未来「うん。知らないよ・・・あっもしかして！！あのこの事か！！」

未来は、思い出した。

未来は、REBORNの世界に行く時に、たしか・・・

ロッキに、家族関係を見せてもらっていた。

未来「スフィアについて？私知ってることすくないけどなあ……

……はつきり言っただけ……」

獄寺「おいてめえふざけてるんじゃないね！！お前の執事に言われたんだよ。」

お前に聞けって！！」

執事「って事は……セディかな？」

ふざけるな！！面倒事任せるなよ！！

ツナ「おねがい未来ちゃん！！」

スフィア「見ると気になって。」

未来は、ため息をついた。

しょうがないなあ……といいながら、ツナたちを、ソファに案内した。

未来「ここに座って。」

スフィアは、本当は、ルミネ家の人なんだけど……

スフィアの血を調べたら……母の血が、35% 父の血が、65%なの。

代タルミネ家は、母の血が、65%ないと、後継者と認めら

れないの。

ちなみに私は、80%、20%なんですけど。」

ツナ「何でそんなに、お母さんの血がないと、だめなの？」

未来「……それはね……」

未来の真実！！

未来「母の血が、なぜ必要かそれは・・・わかんない」

未来の、言った言葉で、一瞬シーンとなった。

沈黙の中、一番に口を開いたのは、

ツナ「ええ！！わかんないの！！」

ツナだった。

未来「だってそんなこと知らないよ！！」

未来は、心の中で、

未来（だってそもそも、私REBORN！の世界にいなかったし・・・しるわけねえよ！！）

心の中で、叫んだ。

リボーン「なぜ知らないんだ・・・ふつうは、母親から聞くと、思うんだか」

未来「だから知らないっていつてるでしょ！！」

山本「まあまあ、落ち着けて愛原も。」

言い争っていると、ドアがなった。

その場は、静かになった。

未来「はい、開いてます。」

未来は、急に無表情になった。

セディ「すいません、お取り込み中。」

エメラルド様から、伝号です。

ネクス様のことは、もういいと、だそうです。」

用件を言い終わると、一礼して、出て行った。

未来「はあ〜これで、話は終わり。」

皆ここに泊まっていてね。

多分セディが、いると思うから、案内してもらって。

おやすみ〜」

ツナたちは、部屋を後にした。

未来の真実！！（後書き）

お気に入り・感想お願いします。

また日本へ！！

未来は、ツナたちが出て行ってから、ボーっとしていた。

未来（つまないなあゝ・・・なんか楽しいことあればいいのに・・・）

未来は、ため息をついて、ベットに倒れた。

ロック「おゝい、未来。今暇か？」

急に、ロックが前に出てきた。

未来「うん。てか、ちょゝ暇だよ。」

ロック「俺いいこと考えたよ！！日本に戻ろうぜ！！」

ロックは、楽しそうに言った。

未来「日本かあゝ・・・いいね！！確か明日が、皆解散だから私達は、今からいこ！！」

未来も、笑って返した。

ロック「準備できら言えよ。あとは、すべて任せろ！！」

未来「じゃあさっさと、お前が消える（ニコッ）」

未来は、笑っているが、目が笑ってない。

ロック「わかりました・・・」

ロックは、消えた。

未来「・・・また、日本かあ・・・楽しみ・・・」

未来は、ポケットから、写真を見ていった。

写真をしまつて、準備をし、部屋を出て行った。

久しぶりの学校！！

未来は、家に行き、荷物を置いて、出かけた。

未来「どこ行こうかなあ……暇だし、学校いくか。」

並中の前に、着いた。

未来「あれ？風紀委員長いないんだ……せつかく来たのに」

もしかしたら……」

未来は、正門を、飛び越えて校舎の中に、入った。

未来が、真っ先に向かったのは、応接室だった。

未来「ハロ……雲雀君元気だった？」

未来は、仕事をしている、雲雀に言った。

雲雀「君、誰？」

雲雀は、トンファーを構えている。

未来「あつ、そういえば、自己紹介してなかったですよ？

並中の2-A組の愛原 未来です！！

前に、商店街で、会いましたよ。」

雲雀「君、なんで学校あるのに、制服じゃないの。」

未来は、自分の服を見た。

未来の服は、白のワンピースに、ネックレスを、見せている格好だった。

未来「アッハハハ・・・ごめんなさい？」

雲雀は、トンファーを振ってきた。

未来「ちよつ待つてよ」

雲雀「この前は、咬み殺せなかったから、今咬み殺す」

未来は、部屋を出て、外に逃げる。

未来は、後ろを向いて、

未来「いい加減に、諦めろ」

未来は、正門に、着いた。

未来「あっ！！そつだ閉まつてた・・・よし！！飛び越えよう」

未来は、飛び越えて、逃げた。

雲雀も諦めたようだ。

雲雀「面白そうだね．．．．愛原 未来．．．」

雲雀は、未来の背中に向かって、笑っていた。

またツナたちと会う！？

未来は、雲雀と別れた後、商店街に、来てた。

未来「はあゝもうツナたちこっちに、戻ってきたか……なんか会いそう……」

未来は、進む道に、会いたくない人が、いた。

未来は、みちを戻ろうとすると。

ツナ「未来ちゃん！！先に、戻ってたんだ。」

会ってしまった。

未来「うん……ちょっと用事があったから……」

未来は、言い訳を言った。

リボーン「ホントにそうなのか？」

未来「あ、当たり前じゃん！！」

リボーン「お前、嘘つくの下手だな。」

わかってしまった。

未来「すいませんね！！嘘つくの下手で！！」

未来は、反抗した。

山本「なんで、先に帰ってたんだ？」

未来「イタリアに、飽きたから、戻ってきた。」

山本「なんだ、そんなことかよ！！」

山本は、笑っている。

未来（なんでこんなに、笑っているんだ？）

心の中で、思った。

リボーン「俺達は、お前を探してたんだぞ。 愛原 未来。

やっとお前の事がわかったぞ。」

未来は、ビククリした。

未来（私のことが、わかった？

嘘でしょ！！だって元から、私はいなかったのに・・・わかるわけない・・・）

ツナ「リボーン何言ってるんだよ！！未来ちゃんが、隠し事してるわけないだろ！！」

ツナは、必死になって、リボーンに話している。

獄寺「いや、10代目……リボーンさんの言ってることは、正しいと思います。」

ツナ「獄寺君も、何言ってるんでよ!!」

ツナも、必死に声を上げてる。

リボーン「ツナどうしていえる。愛原が、隠し事をしていない証拠は、あるのか？」

ツナ「ないけど……未来ちゃんないよね……隠し事なんて。」

ツナは、未来を見て言う。

未来「私は……」

またツナたちと会う!?(後書き)

次回未来の秘密ごとに、迫ってみます!!

ボンゴレとの関係！！（前書き）

長いです。

ボンゴレとの関係！！

未来「……私は……隠し事なんて……」

未来は、その後は、黙ってしまった。

つまりそれは、隠し事があると、言っていることだ。

ツナ「嘘でしょ……なんで隠し事なんて……」

ツナは、動揺している。

未来「アッハハハハハハ！！」

未来の高い声が、響く。

未来「バカじゃないの！！いつとくけど、私は、ボンゴレなんて大嫌いだ！！！！」

ボンゴレなんて……ろくなやつがない。」

未来は、息切れしている。

皆は、いつでも戦闘できるように準備している。

未来は、自分がつけているネックレスを手に取り、握った。

未来「いいよ……みんながその気なら、しょうがないね……」

ボンゴレがどんなにおるか、教えてあげる・・・」

未来は、下を向いた。

未来「私は、母親がいたは、エメラルドじゃない本当の母親が、

母親は、もちろんマフィアだったは、

母は、任務中に、ボンゴレの人にあつたの。

この任務は、ボンゴレの壊滅だった、

母は、その人に一目惚れしたわ。

任務中しかし、相手は、敵のボンゴレ・・・恋をしてはいけない関係。

母は、この戦闘で、亡くなっていることにしたの・・・恋をした相手も、死んだことになって

いる。

二人は、結婚をし、私を産んだ。しかし、ここで歯車は、狂ったわ。

二人とも死んだことになっていたはずが、生きているってことが、分かってしまった。

ボンゴレのほうは、娘と奥さんを殺せ。

母のほうは、娘と夫を殺せ。

どっちも、ボスからの命令は、殺せと言う、命令。

どっちも、幸せを求めたから、神様からの、天罰だ、と思っていた。

だが、父のほうは、自分が殺されると思い、母を殺した。

私がまだ、5歳の時だった。

父は、命令どおり私も、殺そうとした……

だが、私は、母が死んでいたのを見て、父が、裏切ったことに、気がついた。

私は、許せなかった。あんなに、幸せそうな、両親だったのに、

父の裏切り、しかも命令したのは、ボンゴレのボス……

だから、私は、母を殺した、ボンゴレを許さない……」

未来は、今にも泣きそうだった。

未来「これで話すことはないわ……さようなら……ボンゴレの皆さん……」

沢田 綱吉……」

最後に言った、未来の言葉だけが、うれしそうに聞こえた。

ボンゴレとの関係！！（後書き）

未来の、過去言っちゃったよ。
なお、これは、過去の話です。
まだ、未来自身の、秘密があります。

喧嘩！！

未来は、ツナたちと別れて、10分経っていた。

未来は、自分の家に着いた。

未来「ただいま〜 ロックいるでしょ。」

未来は、今はとってもだるかった。

ロック「おかえり、いるぜ。」

ロックは、堂々とソファに、座っていた。

未来「なあ〜に、やってるのかなあ〜??? ロック君は・・・」

未来は、最高の笑顔と、殺気をしながら、言った。

ロック「すいません。調子に乗っていました。いご注意ください。」

未来も、謝っているロックの隣に、座った。

ロック「ちよつと・・・話があるんだが・・・」

未来「わかってるよ・・・そんなの、どうせさっきの話でしょ。」

ロック「ああ、そうだ。分かっていると思うが、お前は、元々いいイレギュラーだ。」

なのに、なぜあの話をした!!」

未来は、初めて見たロックの表情だった。

ものすごい、無表情で、目からは、怒りの感情が、出ている。

未来「ごめ……ん……なぜか……あの時に……記憶が、
流れて……きて……」

未来は、泣いていた。

ロックの冷たい表情が、怖いのだ……いや、怖すぎる。

ロックは、なぜ未来が、泣いていたのか、すぐ分かった。

ロックは、無表情から、優しい表情になり、笑って

ロック「怖い思いさせてごめん。

でも、どういう事だ!?

記憶が流れてきた……」

ロックは、それを聞いて思い当たる節があった。

ロック（記憶が、流れてくるって、未来の思考に、誰かが、その記憶を流し込んだとしか、考えられない

でも、もし未来が、多重人格だったら、ありえる。

でも、それだったらすぐに、分かるはずだ。)

ロックは、悩んでいた。

未来「ロックそんなこと考えてたの……酷い!! ロックのバカ

—————」

未来は、心が読めるので、ロックが、考えていることは、分かった。

未来は、家を出て行った。

部屋に、残ったのは、静かになった部屋と、ロックだけだった。

もう一人の自分！！

未来は、家を出てきた後、山に来ていた。

未来「ハアハア・・・ロックめ！！私が、多重人格だと！！

・・・でも・・・そうかもしれない・・・」

未来は、思い当たる事が、ある。

特に、勝負してる時だ。

急に、楽しくなって、もっと殺したい、もっと血が見たい・・・

など、普段考えてないことが、やりたくなる。

まるで、違う自分が、それを求めているみたいで、怖くなる。

『・・・そうだ、最求めればいい』

未来「誰？もしかして・・・違う自分・・・」

『・・・さあ、もっと殺せ！！殺せばもっと楽になる』

未来「どういうこと！！何で殺さないといけないの！！」

『もともと、お前は、本当の自分に、きずいていない』

未来「意味わかんない！！」

未来は、倒れた。

未来「!？」

未来（何これ・・・動けない・・・）

『・・・安心しろ、最後に、我が名は、ジョーカだ』

未来は、一瞬復讐者^{ヴァインディチェ}が、見えたようだった。

未来は、意識を失った。

あの人に！！

未来は、起きたら違う場所にいた。

その場所は、暗い部屋で、電気が、一列に並んでいた。

未来「ここどこ？とりあえず探してみるか・・・」

未来は、一列になっている光ってる道を、歩いた。

歩いていると、一つのドアがあった。

未来「ここでいいのかなあ・・・とりあえず行くか。」

未来は、ドアを開けた。

開けた先は、奥が真っ暗で、人の気配がした。

未来「誰か・・・いる・・・」

未来は、さらに奥に進み、確認しながら歩いた。

？「そんなに警戒しないでよ・・・未来。」

その声は、奥から聞こえた。

未来「出てきて・・・貴方は誰？」

未来は、一つ剣を、取り出した。

出てきたのは、男だった。

？「なあ・・・未来、俺のこと忘れたの？」

未来は、何のことだかわかんなかった。

未来「何言ってるの！！貴方は誰？」

ジョーカー「俺が、ジョーカーだよ。会いたかったよ、未来。」

未来は、ジョーカーの名を聞いたことがあった。

未来「貴方が、私に話しかけてきたのね。」

ジョーカー「ああ、そうだよ。」

酷い未来・・・俺は、お前を忘れた事なんてないのになあ」

未来は、剣を構えた。

未来「私は、お前なんて知らない・・・」

未来は、ジョーカーの近くに行き、ジョーカーを斬った。

もうそこには、ジョーカーはいなかった。

ジョーカー「いきなり酷いよ・・・」

ジョーカーは、未来の後ろにいた。

未来は、ジョーカーから離れた。

今度は、ジョーカーから、未来近づいた。

ジョーカーは、目に見えない速さだった。

未来が、見た時は、もう目の前にいた。

あの人に！！（後書き）

いいところですが、次回です。

新たな名！！

未来（やばい……でも、これじゃよけれない……死ぬのか……）

目をつぶって、殺されるのを待った。

痛みは無く、目を開けた。

ジョーカーは、目の前にいた。

未来「私……死んでない……なんで!？」

ジョーカー「未来を殺すわけ無いよ。」

未来「がいないと困るの俺だし。」

ジョーカーは、笑っている。

未来もつられて、笑った。

未来「てかさぁ……ここどこ?？」

一番気になっていることを聞いた。

ジョーカー「ここは、俺の幻想世界だ。」

未来「えーっ」と何で私は、ここにいるのかな?？」

ジョーカー「だって・・・未来は、俺で、俺は、未来だ。」

未来「言ってることが分からないんだけど・・・」

ジョーカー「つまり、俺は、もう一人のお前だ!!」

未来「!?!」

ビックリ過ぎて、声が出ない。

ジョーカー「俺は、戦いがメインだ。

未来が、戦ってる時は、俺の力を貸している。

逆に、戦いじゃない時は、未来だ。」

未来「えっ!!そうだったの!!」

(だから、戦いの時は、我を失うのか・・・なるほど!!)

ジョーカー「俺は、ヴィンディチェ復讐者の支配者だ。」

未来「えっ・・・支配者?嘘でしょ!!」

ジョーカー「いや、これが本当なんだよ!!だから、未来も、ヴィンディ復讐者の支配者

ってこと。」

未来「わ、私も!!嘘でしょ・・・」

ジョーカー「しょうがないよ……未来……ボンゴレに、憎んでるって話したでしょ……」

あれは、本当は、俺の記憶なんだ……」

未来が、話してる時、記憶が流れてきたのは、ジョーカーの記憶。

未来（ちよつと待てよ……ことは、私が、転生してきたこと、知ってるジャン！！）

ジョーカー「俺は、ずっと待ってたよ、未来のこと……」

これで、永遠に離れないね……

俺が、全部うまくやっておくから、今は、眠ってて。」

未来は、だんだん眠くなってきた。

未来（なにが……うまくいくの……ジョーカー）

未来は、意識を失った。

・ ジョーカー「大丈夫だよ……俺らで、ボンゴレをつぶそう……」

誰もいない……世界を作ろう……ルビー・ル
ミネ・未来、

いや、『シークレット・プリンセス
秘密の姫』」

ジョーカーは、未来に向かって笑っていた。

まるで、悪魔のような顔で・・・

仲直り！！

未来は、起きた時は、自分の部屋にいた。

未来「あれ？何で家にいるのかなあ？だって、さっきは、ジョーカーと会ってたし……」

ロック「未来起きたのか……」

ロックがいた。

心配そうな顔をしている。

未来は、気づいた。

未来（そういえば……まだロックと仲直りしてないんだ！！）

未来「ロック……この前はごめんなさい」

頭を下げて、謝った。

ロック「俺も悪かった……未来は、未来だもんな」

二人は、笑いあい、笑顔になった。

ロック「俺昨日は、心配したぜ。」

だって、未来が帰ってきたら、お前すぐ自分の部屋行ったよな。」

未来（それって……ジョーカーが、私の体使ったってこと！！！）

ジョーカー『そうだよ……未来の体使ったっていいじゃん。』

よくない……
未来

ロック「どうした、未来？」

未来「なんでもない」

未来は、立ち上がりで出かける準備をしている。

ロック「どっかいくのか？」

未来「うん！！いってきま〜す」

ロック「いつてらっしやい」

仲直り!! (後書き)

ジョーカーの、説明書きますので・・・
お楽しみに♪
感想も待ってまゝす

六道 骸に会う！！

未来は、家を出て向かった先は、黒曜ランドだった。

黒曜ランドに着き、中に入る。

未来「誰がいる??出てきて」

犬「お前誰だぴょん!!」

未来「やっと出てきてくれた!!私は、愛原 未来。

骸に用があつて。」

犬「骸さんに?ついてくるぴょん」

着いたところは、部屋だった。

千種「・・・犬、その人誰・・・」

犬「骸さんに用が、あるみたいだぴょん。」

クローム「骸様に・・・?」

未来「そう・・・骸に用があつて・・・」

えっーと・・・貴方達は?」

犬「城島犬らっ」

千種「・・・めんどい・・・」

未来「なにそれ！！名前ぐらい言ってよ・・・」

千種「…柿本千種・・・」

クローム「・・・クローム・・・髑髏・・・」

未来「私は、愛原 未来、よろしく！！」

クローム「・・・よろしく・・・未来・・・」

未来「よろしくね・・・クローム」

クロームは、恥ずかしいのか、下を向いてしまった。

未来「ねえ、クローム、骸に会えない？」

クローム「今、聞いてみる・・・」

クロームは、目をつぶった。

クローム「いって・・・」

クロームの周りに、霧が出てくる。

骸「クフフフ」

男の声がした。

骸「貴方ですか、私を呼んだのは」

未来「初めまして、私は、愛原 未来です。」

骸「私は、六道 骸です。」

未来「・・・私になんのようですか？」

未来「いや、用ってほどじゃないけど・・・」

骸「さあ、ツナ霧の守護者じゃん・・・」

会ってみたいなあ、と思っただけ。」

骸「クフフフ、そうですか・・・。」

未来「これから、よろしくね!!」

骸「いいですよ、クロームを頼みました。」

そういつて、また霧が、出てきて、クロームが、倒れてきた。

未来「おっと、危ない。」

クローム「未来・・・話終わったんだ・・・」

未来「うん、じゃあね、クロームたち・・・」

未来は、クロームたちに、手を振って、行った。

ジョーカーの設定!!

名前 ジョーカー

身長 154 cm

体重 50 kg

髪型 ショートで、赤色

目の色 赤色

武器 未来と一緒

性格 めんどくさがり、人を信じない

好きなタイプ 誰にでも本性を出さない人、人を信じない人、世界を憎んでいる人

嫌いなタイプ 人を信じる人、優しくする人、何も考えてない人

説明 未来のもう一人の人格、未来だけを信じ、未来のためなら、なんでもする、

過去に暗い思いをしている。

未来を使って、何かをたくらんでいる。

未来の体を、自由に使えて、思考が、読める。

快感！！

未来は、黒曜ランドを去って、次に行った場所は、並盛山だった。

未来「ジョーカーここに何があるの？」

ジョーカー「待ってる……これから、楽しいショーが、始まるから待ってて……」

ジョーカーの言ってることは、何か分からなかった。

聞いているだけで、寒気がした。

何を考えているか分からない……それに、ジョーカーは、いつも残酷なことで、楽しいことを

考えてる。

ジョーカー「そろそろ、始まるよ……」

未来「なにが……」

未来は、待ち構えていたが、何も起こらない。

ジョーカー「未来、隠れて……始まるよ……」

未来は、ジョーカーに言われたとおり、近くの林に、隠れた。

そこに、現れたのは、ツナたちだった。

ツナ「あれ？ここら辺で、気配感じたのになあ」

獄寺「そうなんですか・・・でも、誰もいませんよ。」

山本「ツナの勘違いだぜ！！」

ツナ「やっぱりそうなのかあ・・・」

未来は、ツナが言っていることは、自分のことだと分かった。

ジョーカー『未来、あいつらと戦わないの？』

せつかく、潰せるチャンスなのに・・・もったいな

い・・・」

未来（無理に決まってるでしょ！！）

ジョーカー『だったら、俺がやるよ・・・未来のために・・・』

未来ちよっと待っててね・・・」

未来「いつもジョーカーばかり・・・」

未来の、意識は飛んだ。

ツナは、奥から聞こえてくる音を見逃さなかった。

ツナ「誰か来る！！」

ツナたちは、戦える準備をした。

ツナ「出て来い・・・」

奥から出てきたのは、深くフードをかぶっていて、顔が見えなくて、全身黒の人だった。

フードから、少し赤い髪が、見えていた。

ツナたちは、誰かわかんなかった。

あとで、後悔をするとは、知らず・・・

未来だと・・・分からないまま・・・

正体！！

ツナ「お前は、誰だ！！」

未来「お前達には、教えない・・・ただ、私は、お前達を殺すだけだ・・・」

獄寺「10代目下がつててください！！」

山本「ツナ、下がってろ！！」

二人は、ツナの前に出て、構えている。

未来「すぐに楽にしてやる・・・」

未来は、獄寺と山本に、近づいた。

二人とも、反撃してくるが、すべてをかわしている。

未来「甘いぞ！！死ね！！」

未来は、山本に、向かって剣を振った。

未来の前に、山本は、いなかった。

未来「なんだと・・・」

山本「攻式、五の型 五月雨」

未来「っ！！」

未来は、寸前でよけた。

未来「危なかった・・・」

獄寺「フレイムアロー赤炎の矢」

未来は、よけなかった。

未来「いったゝゝ」

ツナ「未来！？」

ツナが、姿とは、フードが外れていて、ストレートで、赤髪だった。

ツナ「どういうことだ！！ホントに、未来なのか？」

未来「ばれちゃったかあゝ・・・改めて、

愛原 未来、またの名はだ！！」

リボーン「『シークレット・プリンセス秘密の姫』だと！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4582y/>

家庭教師ヒットマンREBORN！ 秘密の少女

2011年12月20日17時53分発行